

イワタイゲキ *Euphorbia jolkinii* Boiss.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 13。自然度の高い海岸に生育する海浜植物で、愛知県では生育地が極めて少なく、個体数も少ない。

【形態】

多年生草本。茎は太く、多数が叢生して直立し、高さ 30~50cm、時にはそれ以上になり、傷がつくと白色の乳液を出す。葉は多数密に互生し、長楕円形~倒披針形、長さ約 4cm、先端は鈍頭、辺縁は全縁である。茎の先端には数枚の葉が輪生し、葉腋から散形枝を出し、各枝に杯状花序を頂生して、分枝を繰り返す。花期は 4~6 月、杯状花序の腺体は楕円形、苞葉は黄色で楕円形、長さ 1~2cm である。果実は直径約 5mm、表面にはこぶ状の突起が密生する。

【分布の概要】

【県内の分布】

西：36 西尾南部（沖島、芹沢 58173, 1991-4-27）。梶島にもあるという（小林・深谷 2008）。三河湾内の他の場所からも記録されているが、確実な資料は残されていない。

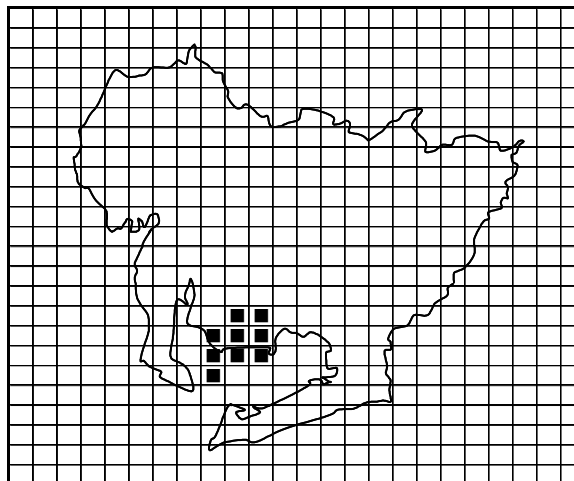
【国内の分布】

本州（関東地方南部以南）、四国、九州、琉球に生育する。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島南部、台湾、中国大陸に分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

海岸の岩地に生育する。生育地の状態は、「植物からの SOS」(SOS 旧版) 31 図版に示されている。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				○
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

生育範囲は狭いが、かなり大型の株もあった。現地は近づきにくい状態になっており、最近の状態は確認していないが、開発がなければ当面は現状どおり存続すると思われる。

【保全上の留意点】

現地は再開発が企画される可能性があり、そのような場合は特に配慮が必要である。

【引用文献】

小林元男・深谷昭登司. 2008. 佐久島・三河湾島々の植物 p192, 242. 佐久島会, 刈谷.

【関連文献】

保草本 II p.80, 平草本 II p.226, 平新版 3 p.153, SOS 旧版 p.62+図版 31, SOS 新版 p.147,149.